



健康の輪



編集●全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局(結核予防会内) 題字●初代会長 廣瀬勝代

資金寄附者等感謝状贈呈式並びにお茶会



令和5年7月18日、リーガロイヤルホテル東京（東京都新宿区）において、結核予防事業資金として結核予防会に多額のご寄附をいただいた方々に、秋篠宮皇嗣妃殿下より感謝状が授与されました。

感謝状贈呈式に続いて記念撮影があり、その後お茶会が行われました。資金寄附者の方々となごやかなひとときを過ごされました。

結核予防会へのご寄附には、事業を指名してご寄附をいただく「事業資金」と複十字シールを通して結核全般に対するご寄附をいただく「複十字シール募金」の2つの部門があります。

昨年度は両部門に対して、個人12名ならび3団体より多額のご寄附をいただきました。式当日は、6名の方々が出席されました。

詳細については、結核予防会ホームページ、「寄附金控除・表彰制度」をご参照ください。

<https://www.jatahq.org/headquarters/seal/deduction/>

季節のお便り：シソ科の仲間たち

結核予防会総裁 秋篠宮紀子

植物園へ、そして高山植物が自生する山へ

昨年の夏、久しぶりに訪れた信州で、宮様に誘われて白馬五竜高山植物園へ行きました。それがきっかけとなり、その後、植物観察会に参加し、その土地固有の植物が見られる湧水湿地や高山植物が自生する山へ出かけるようになりました。

今回は、植物園や山で出会ったシソ科の植物、そして自分にとって身近なシソ科の植物についてお伝えします。

白馬五竜高山植物園と 八方尾根の花畑での出会い

今年の春から夏にかけて植物の観察のために赴いた湿原や高地では、様々な出会いがありました。

5月には愛知県豊橋市の葦毛湿原を訪ね、トウカイコモウセンゴケやトキソウなどの観察をしながら、遷移が進み森林化した植生を回復する作業についてのお話をお聞きました。また、山梨県の三ツ峠では、アツモリソウやカモメランなどの希少植物を保護する取り組みについて伺いました。

同じく7月には、長野県北安曇郡にある白馬五竜高山植物園を1年ぶりに訪れました。コマクサやゼンテイカ（ニッコウキスゲ）、ヒマラヤの青いケシなど華やかな花も咲いている中で、「イブキジャコウソウ」と呼ばれる紫がかかった薄いピンク色の小さな花が目にとまりました。この花は、伊吹山で初めて発見されたシソ科の植物であることを教えていただき、園の職員に勧められて小さな葉にそっとふれてみると、指先にほんのりとしたよい香りが移りました。

8月には、北アルプスにある八方尾根での高山植物の観察会に参加しました。ゴンドラからリフトに乗り換えて上がった標高1820メートルから2060メートルの八方池へ至る山道を歩き始めると、ハッポウウスユキソウ、タカネナデシコ、ユキワリソウ、ミヤマアズマギク、ハクサンチドリなどを見ることができました。山で出会う人と挨拶を交わすように、花とも挨拶しながら腰をかがめていたとき、岩陰にかわいらしいピンク色の花が咲いているを見つけました。「あらっ、もしかしたらこれはイブキジャコウソウかしら」と植物の研究者である知人に確かめると、笑顔でうなずかれました。私は嬉しくなって、他の方が歩を進めて次の花の観察に移る列の後方で、しばらくこのシソ科の小さな花と語り合っていました。

香りを楽しみ、手でふれてみる世界

植物の香りや感触に、より興味をもつようになったのは、友人の一人が花梨の実の甘い香りの他に、芝生に落ちていた花梨の葉を手にとって、表と裏の手触りや、葉のかすかな香りを楽しむ姿を見たことがきっかけかもしれません。それから、植物を視覚でとらえることに加え、嗅覚や触覚もはたらかせるようになりました。

赤坂御用地内には、様々な香りのする植物があります。例えば、タイサンボク（泰山木）の大木に近づいていくと、高い枝にある白い開きかけの蕾から、また大輪の花から芳しい香りが漂ってきます。葉にさわってみると、深緑色の葉の表面は滑らかで、ブロンズ色の裏面はこまかい毛があってビロードのよ



八方尾根のイブキジャコウソウ



アップルミントの花（9月中旬）



赤紫蘇と青紫蘇の花（10月初旬）



うな質感があります。このようにふれることで、タイサンボクの葉が、より表情豊かで魅力的であることがわかりました。

また、庭に植えているミントやバジルなどのハーブの多くがシソ科の仲間であることを、最近本を読んで知りました。庭に育つアップルミントは、葉に厚みがあり丸くて柔らかいので、「丸葉薄荷」とも呼ばれているようです。ミントには、胃腸の調子を整えるなど、様々な効用があります。摘み取った新鮮な葉を使うハーブティーは、ミントの種類によって香りや風味が違って、蜂蜜や黒糖で甘みを加えたりすると、苦手な方にも飲みやすくなるようです。ミントは定期的に剪定するのがよいようですが、今年の一部をそのまま残し、淡い紫色に咲く小花を楽しみました。

夏の楽しみ 紫蘇ジュース作り

そしてシソ科といえば、ビタミンやミネラルを豊富に含む赤紫蘇や青紫蘇が我が家でも活躍しています。大葉の天ぷらや紫蘇の実の佃煮、花穂紫蘇は薬味にと重宝に使っています。その他に紫蘇ジュースを作ることでもあります。ジュースのレシピは、娘たちが幼



紫蘇ジュース

い頃、家族4人で夏休みに軽井沢に滞在していたときに知人から教えていただいたものです。赤紫蘇と青紫蘇の両方を使います。初めは購入した紫蘇の葉を使っていましたが、しばらくしてから畑で紫蘇を作るようになり、好きなときに畑に行って紫蘇を摘んでジュースを作るようになりました。

指先に爽やかな香りに移る紫蘇摘みの作業も、夏の楽しみの一つです。紫蘇の葉を1枚1枚洗い、お湯を沸かしたお鍋に少量ずつの赤紫蘇の葉を入れては取り出すことを繰り返す工程では、甘い香りが広がり、最初は薄い緑色だったお湯が徐々に小豆色になっていきます。最後に青紫蘇を少量入れると、お鍋に爽やかな香りが立ちます。このお湯を濾して再びお鍋に入れ、お砂糖を入れてよく溶かし、さらにクエン酸を加えると瞬間に鮮やかな赤紫色に変わって、シロップができあがります。これを適量の水で割るときれいな色の紫蘇ジュースになります。庭仕事の後などに飲むと、元気になります。

小さな草花に会いに

信州の旅から戻り、高山で見たイブキジャコウソウの可憐な花が懐かしくなりました。観察会の仲間に相談して、乾燥に強く、繁殖力もあるこの植物の苗を、宮邸の庭の一角に植えることにしました。少しずつ増え、吹く風にイブキジャコウソウの香りが漂うようになりました。

シソ科の植物は、身近な場所でも見られます。春にはヒメオドリコソウやホトケノザが咲き、初夏にはムラサキシキブの小さな花が咲きます。これからは虫眼鏡を持って、小さな草花に会いに行きたいと思っています。

複十字シール運動表敬訪問

知事表敬訪問

宮婦連健康を守る母の会
会長 鈴木 玲子



7月25日、宮城県結核予防会の渡辺理事長様方と共に、宮婦連健康を守る母の会の会長・副

会長3名は宮城県庁を訪問し知事表敬訪問を行いました。当日は、伊藤哲也副知事が対応してくださいました。

結核予防会の熊谷専務理事による令和4年度の事業報告では、コロナ禍で受診者の減少の影響もあり、罹患者が10万人当たり10人を割り9.2となり、長年の目標が達成されたことが報告されました。

また、コロナ禍の中でも工夫を凝らした予防や啓発活動が活発に展開されたことも併せて報告されました。

当会も、昨年度の結核予防や啓発の活動を報告書にまとめお伝えしました。

県内各婦人会は結核撲滅に向けて、様々な活動の機会に「複十字

シール」運動を展開していること。また、本年度の当会事業「～(ながら)ウォーキング」を行いながら、地域の方々に積極的に予防と啓発の活動をすることをお伝えしました。

更なる活動の推進をと心に刻んだ訪問となりました。🐱



左より齋藤事務局長、赤間宮城県保健福祉部疾病・感染症対策課長、熊谷専務理事、渡辺理事長、伊藤宮城県副知事、鈴木宮婦連会長、櫻井宮婦連副会長、我妻宮婦連副会長

埼玉県地域婦人会連合会
会長 柿沼 トミ子



私たちは毎年結核撲滅運動の一環として街頭募金、複十字シール運動の啓発活動を実施してきております。今年度もその活動に先立ち、埼玉県健康づくり事業団の方々と共に大野元裕知事を

表敬訪問いたしました。

私からは「大野知事には常日頃から、私たちの活動に深い御理解と御協力を頂いております」と感謝を申し上げ、本年度も御支援御協力をお願いしたい旨の依頼文書を手渡しました。

記念撮影の後、ひとときの時間を頂き意見交換をいたしました。私からは特に埼玉県の特徴として東南アジアからの若い労働者が大勢働きに来ている、その方々の中

で結核の予防接種が実施されていない保菌者から抵抗力の弱い高齢者に感染しているという事例も耳にしております。雇用主等には働く人々への十分な健康チェックをお願いして頂きたい旨、申しあげました。知事は大きくうなずかれ「確かに、埼玉県は外国人の方が多いですからね、皆で協力して結核撲滅に頑張りましょう」と話され、最後に皆と固い握手で決意を新たにいたしました。🐱



大野知事を囲んで記念撮影



熱心に傾聴くださる大野知事

静岡県結核予防婦人会
会長 長野 蝶子



晩夏とはいえ猛暑の中、複十字シール運動期間が始まりました。

去る令和5年8月22日、静岡県結核予防会萩原理事長、当婦人会井出副会長と共に静岡県森貴志副知事を表敬訪問しました。

森副知事への訪問は昨年引き

続き2回目ということで、その間日常的に当会の活動全般にご支援を賜っています。この度改めて、運動の意義や目的、県内・日本および世界の結核の現状について説明し、普及啓発グッズと今年度の複十字シールをお渡ししました。また、県内各自治体においても結核予防について広く一般に普及啓発活動の促進への協力をお願いいたしました。

森副知事からは「普及啓発の対象は具体的にはどのような方々なのか」「複十字シール運動の歴史や複十字マークの由来とは」など

様々な質問を受け、激励の言葉を頂きました。

コロナウイルスの影響も徐々に少なくなり、当会の活動も以前の形式へ戻りつつあります。コロナウイルスと同様の感染症として「結核」の状況も強く訴えていく必要性を感じました。また、多様な方々とのコミュニケーションを通し、常に新たな普及啓発方法を模索していくことを重要視し、私どもの活動が、結核のない未来への一助となればと気持ちを新たにしました。🐾



森副知事（中央）と記念写真

大阪市地域女性団体協議会
会長 前田 葉子



7月25日(火)炎天下、大阪では天神祭りの日、(一財)大阪府結核予防会河面理事長、平井常務理事、木谷事務局長他と

私で、複十字シール運動開始を前に、大阪府庁・大阪市役所を表敬

訪問いたしました。

大阪府庁では吉村府知事に代わり西野健康医療部長が、大阪市内では新谷健康局長と吉田首席医務監が横山市長に代わり対応されました。

当方から、2023年度複十字シール運動協力依頼文を読み上げ、詳細にわたり現状報告をしたところ、夫々の行政とも、日頃の私たちの活動に感謝され、今後も引き続き活動いただきたいとの、激励の言葉を頂きました。

また、今年度の複十字シールの絵模様には話が及び、今の世の「災い」から守るため、祈りを込めた「お守り」、日本各地の動物や神獣をかたどった縁起物が描かれていると説明すると、とても興味を持たれたようでした。

結核罹患率は低下してきましたが、大阪では、まだまだ新規感染者も多く、私達も「結核制圧」にむけ、各地域において啓発活動に邁進していかなければと決意を新たにいたしました。🐾



府庁にて（左から山崎感染症対策企画課長、酒井感染症対策監、西野部長、河面理事長、筆者、平井常務理事）



市役所にて（左から新谷局長、吉田首席医務監、河面理事長、筆者、平井常務）



協力依頼の手交（左から西野部長、河面理事長、筆者）



協力依頼の手交（左から西野部長、河面理事長、筆者）

鳥取県健康を守る婦人の会
会長 河本 香



鳥取県では、
複十字シール運
動開始に合わ
せ、8月4日に
表敬訪問いたし
ました。

はじめに、挨拶文を読ませてい
ただき、鳥取県健康を守る婦人の

会では、全国の婦人団体と共に、
平成13年度から県内3か所におい
て街頭募金を行っていること、結
核が世界の死亡原因のトップ10の
1つになっていること、日本でも
各地で集団感染が起きていること
などを、お話をさせていただきました。

平井伸治知事からは、日頃の私
たちの活動をねぎらっていただき、
これからも1人でも多くの方々に、
結核の事をお知らせくだ

さいというお言葉を頂きました。

最後に記念撮影をして、表敬訪
問は終わりました。短い時間では
ありましたが、自分たちの活動を
よく理解して頂いているという思
いで、喜びの気持ちが溢れました。
これからは啓発活動に力を入れて
頑張っていきたいと、決意を新た
にしました。🐱



平井知事との歓談の様子



平井知事を囲んで記念撮影（筆者は右から4番目）

福岡県結核予防婦人会
会長 木下 幸子



令和5年8月
2日（水）に、
公益財団法人ふ
くおか公衆衛生
推進機構（結核
予防会福岡県支

部）理事長本田浩様、専務理事（兼）
公益事業局長刈茅初支様と婦人会
役員4名と一緒に、福岡県庁に出
向き、大曲昭恵副知事を表敬訪問
しました。

結核の現状について、本田理事

長より説明させていただき、私か
らは、コロナ禍での婦人会活動で
も継続してきた「複十字シール運
動」へのご理解とご協力をお願い
しました。

大曲副知事からは結核は過去の
病気ではないことや複十字シール
運動への協力を継続していただ
けとの力強いお言葉と日頃の普及
啓発活動に対する励ましのお言葉
を頂戴しました。

また、例年行っていた議長・副
議長への表敬については、残念な
がらご予定が合わず、対談は叶
いませんでしたが、秘書室へご協力

依頼の文書等をお渡しいただくよ
うお願いいたしました。

なかなかお会いする機会がな
かったのですが、久々の対面では、
思わず話が弾み、楽しいひととき
となりました。

コロナが少し落ち着いたとして
も、まだまだ油断できません。感
染症対策にお休みはないと肝に銘
じ、粛々と普及啓発活動を続け
ていきたいと考えております。
みなさま、張り切ってまいりま
しょう。🐱



熱心にお話を聞いてくださる大曲副知事（中央）



最後にシールぼうやを囲んで記念撮影（左端が筆者）

新会長就任ご挨拶

滋賀県地域女性団体連合会 会長 上村 照代



今年度より滋賀県地域女性団体連合会の会長職を担っております上村照代でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

結核と聞くと、まず思いだすのは小学生の頃のツベルクリン反応とBCG接種の事でしょうか、本当に高学年になるまで毎年のようにBCG接種の洗礼を受け、じくじくと中々治らない接種の痕に悩まされたものです。

又、あんなに恐ろしいと思われた新型コロナウイルスもやっぱり良く効く薬が開発されたお陰で何だか気持ちに余裕が出来た程です。

結核はもう過去の病気のように思われますが、決してそうではなく、今でも日本では年間2,000人近くが亡くなるそうです。

私たちはただ恐れるのではなく、結核についての知識を深め、自分や家族の健康的な生活に努め、行政や地域の皆様と共に複十字シール運動を通して啓発を進めて参りたいと思います。私たちは結核のみならず感染症の予防啓発活動に努力して参りたいと思います！🍅

島根県連合婦人会 会長 浅津 知子



今年度、島根県連合婦人会会長に就任いたしました浅津知子と申します。

昭和23年に発足以来、県内各地域婦人会の連携

をはかり、数十年に亘る複十字シール運動を中心に、結核予防の推進や啓発活動に努めて参りました。私自身も結核予防婦人団体幹部研修会で学ばせて戴き、更に拍車がかかりました。

今年度も8月に知事表敬訪問を行い複十字シール運動の説明や報告をし、丸山知事からも激励を戴き励みになりました。今年度より『手をつなぐ しまねの婦人会』～今、地球や人類のために私たちができることは～とテーマを決め、変遷する社会情勢の中で、結核予防婦人団体として複十字シール運動や啓発活動を始め、女性の社会参画の促進や消費者問題・環境問題等、諸課題へも取り組んで参ります。

皆でしっかりと“手をつなぎ”地域社会に結核予防の重要性を伝えて行き、国連が掲げるSDGs「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現を目指していきたいと考えます。🍅

一般財団法人 長崎県地域婦人団体連絡協議会 会長 兒玉 涼子



令和5年6月7日より長崎県地域婦人団体連絡協議会会長（長崎県結核予防婦人団体の会長も兼務）に就任いたしました兒玉涼子と申します。会長としての重責に身の引き締まる思いですが、経験豊富で専門知識をお持ちの先輩諸氏や県下会員のパワーを頂き楽しく活動をして行きたいと思っています。

「結核」は私にとって身近な病気の一つで、約60年前に「結核性腹膜炎」と言う診断で実父を亡く

しました。40代働き盛りの父は定期的な健康診断を受けておらず、病院に駆け込んで即入院となつてから10か月後に旅立ちました。

私達会員には毎年、長崎県健康事業団より現状や課題の講話をして頂きますが、残念な事に長崎県の罹患率が全国ワースト第3位となっている事に驚いています。少しでも改善する様に正しい知識を持ち、複十字シール運動にも協力し一般の方々にも啓発活動を広げて行きたいと思っています。🍅

大分県結核予防婦人会 会長 水谷 トシエ



令和5年度より大分県結核予防婦人会の会長に就任いたしました水谷トシエと申します。どうぞよろしくお願いいたします。

コロナウイルス感染症によりいろんな活動が休止しておりましたが、昨年度、当県で開催された九州地区婦人大会に合わせて11月25日、大会の終了を待って、第52回九州地区結核予防婦人団体幹部講習会を開催することができました。九州各県から433名参加いただき、盛大に行われました。

山下武子事務局長による「結核予防活動と婦人会」また、大分県福祉保健部理事 藤内修二先生による「新型コロナウイルス感染症の動向と結核」と二本の講演をいただきました。初めて結核の講演を聴く人も多く、非常によい講習会となりました。

大分県では昨年一年間で119人が新たに結核患者と診断されました。コロナと合わせ、結核予防活動の啓発活動になお一層努力して

まいりたいと思います。🐱

鹿児島県結核・成人病予防婦人会
会長 大迫 茂子



この度、前伊佐幸子会長の後任として、鹿児島県結核・成人病予防婦人会長に就任させてい

ただきました大迫茂子と申します。

私は、35年余り地域で婦人会活動をしてまいりました。それに伴い、結核・成人病予防婦人会員としても複十字シール活動への協力や結核・がん検診等の受診者増に向けて地域で地道な活動や声かけをしてまいりました。

今回、私には身に余る大役をお引き受けいたしました。これま

での一会員としての活動を踏まえ、八千人余りの県下の会員と「健康で長生き」をモットーにして、超高齢社会における結核・成人病予防婦人会活動を会員と共に推進していきたいと思っています。どうぞご指導ください。🐱

第98回日本結核・非結核性抗酸菌症学会：市民公開講座 「日本の結核予防の礎を創った人々」開催！



ご講演される山口峯生氏

令和5年6月11日（日）、京王プラザホテル（新宿区）にて、日本結核・非結核性抗酸菌症学会による市民公開講座がありました。

今回は、学会創立100周年を記念して開催されていることもあり、専門的な内容でしたが、元秩父宮付宮務官で、本会事務局長（平成9年から17年3月まで）だった山口峯生氏が講演されると伺い、事務局で講演を拝聴しました。

結核予防会創設以来、55年にわたり、総裁を務められた秩父宮妃勢津子殿下が、どのように活動をなさっていたかを伺うことができました。

また、秩父宮妃殿下が、ご自身の経験から、結核について知ることの大切さ、それを地域に伝え、感染・発病の予防の実践には、女性の力が欠かせないという信念をお持ちでした。そのため、婦人会や保健師・看護師の活動にも心を寄せていらっしゃるエピソードが語られました。さらに、山口氏のお孫さんを抱いて、世の中のために尽くすようしっかり生きてくださいと声をかけられたというお話もありました。

医療技術・研究などの専門家による新しい知見を、婦人会の手で広く一般に広げ、「知識を常識に変える」活動を続けていくことが、先人からの与えられたメッセージだと実感しました。

婦人会事務局

第98回日本結核・非結核性抗酸菌症学会
会長：公益財団法人結核予防会結核研究所 所長 加藤 誠也

市民公開講座
「日本の結核予防の礎を創った人々」

開催日時：2023年6月11日（日）15時40分～17時40分
開催場所：京王プラザホテル「エミネンスホール」（南館5階）
〒160-8330 東京都新宿区西新宿2-2-1
※ライブ配信もあります

座長：工藤 翔二（公益財団法人結核予防会 代表理事）

- ① 凡、コッホに学び結核予防協会、日本結核病学会を創設された北里 柴三郎 先生
小林 弘昭 氏（学校法人北里研究所 理事長）
- ② 結核予防協会を創設し、結核予防会の発展に尽力された第一生命創業者 矢野 恒太 氏
渡邊 光一郎 氏（第一生命保険株式会社 特別顧問）
- ③ 日本で初めてBCGワクチン接種を行い、全国に先駆け検診を導入された 今村 寛房 先生と「今村寛」
堀川 誠次 氏（大原南結核予防会 顧問）
- ④ エックス線検査による結核診断の道を開かれた結核病理学の泰斗 岡 治道 先生
高 亨 氏（結核研究所 名誉所長）
- ⑤ 結核予防会創設以来55年にわたって総裁を務められた秩父宮妃勢津子殿下
山口 峯生 氏（元秩父宮付宮務官）

参加費 無料
申込方法 右のQRコードまたは下記URLにアクセスのうえ、お申し込みください。
<https://www.hakkokaku.gr.jp/j9798/>
お申し込みが完了されましたら、当日のご案内（会場・ライブ配信視聴方法）をメールにてご案内いたします。
申込期間 2023年5月10日（水）12時～6月11日（日）17時
お問い合わせ 運営事務局（株式会社コンベンションプラス）
E-mail：j98jst@convention-plus.com
TEL：03-4355-1137（平日10時～18時、土日祝を除く）

当日のチラシ

結核の名著:「白い疫病」(ルネ・デュボス、ジーン・デュボス著) 北錬平翻訳、結核予防会、1982年(原書1952年)

東都大学沼津ヒューマンケア学部
教授 松田 正己



ルネ・デュボス(1901-1982)はフランス生まれ、23歳で米国に移住、ロックフェラー医学研究所で土壌微生物学の学位を取得。同研究所で細菌を破壊する酵素の研究をし、1939年臨床で使用された世界初の抗生物質グラミシジンを発見した。一般にはフレミングが発見したペニシリンが世界初と言われるが、抗生剤になったのは1940年である。1943年にストレプトマイシンを発見したワクスマンや、1956年に日本初の抗生物質カナマイシンを発見した梅澤浜夫も、デュボスを参考にした。

1942年最初の妻が結核で死亡。デュボスは抗生物質に適応した抵抗株の細菌を予言し、抗生物質だけに頼るのではなく、「健康の増進」や「環境」対策から病気を制御すべきと説いた。デュボスは国連のアドバイザーとして1970年代にThink Globally, Act Locally(地球規模で考え、地域で行動しよう)を提言した環境保護活動家でもあり、その意味で結核対策と現代の国連SDGs(持続可能な開発)をつなぐ人とも言える。

ところで、白い疫病(White Plague)とは結核のことで、黒死病(Black Death=ペスト)と対比させている。本書が翻訳されたのは原書刊行から30年後(コッホの結核菌発見100年記念)だが、多岐におよぶ内容は今読んでも興味深い。翻訳も素晴らしい。本書は256頁で4部に分かれるが、意外にも文学や日記、書簡などの人文的資料による記述が多い。序によると、通常の病気の知見である死亡統計や病院記録は結核の診断が不正確な時代には医学的情報として不完全で、むしろ体験から感覚的・感情的につかみ取れる資料が示唆に富み、信頼できるという。たとえば、第1部「19世紀の白い疫病」の2章「キーツへの死刑執行令状」では、26歳で死んだ英国ロマン主義の詩人キーツを取り上げ、19世紀の結核の診断・治療に対する無知が、詩人の若すぎる死を招いたとしている。

また3章「北風からの逃走」では、ヴァイオリニストのパガニーニなど結核で亡くなった芸術家たちが、保養のため温暖なフランス

のニースに旅をしたことが述べられている。興味深いのは、ロマン派の文学やオペラ、男女のファッション、女性美の基準にも結核の影響が見られることだ。詩人の悲劇的死などから結核は貴族的な消耗病とされ、「文学の女神」といったセンチメンタルなイメージもあったが、19世紀後半にはそれが「過酷な殺人者」へと変わり、産業革命によるスラムの拡大、労働者の苦悩などと結びつけられるようになった。

第2部「結核の原因」、第3部「結核の治療と予防」では、近代的な病原微生物学や医学的な説明が、第4部「結核と社会」では、19世紀後半からの社会改革運動(英国など)が科学的理念よりも人道主義に基づいていたこと、20世紀の公衆衛生の進歩は細菌学の理論よりも公共心のある市民による衛生教育が中心であったこと、欧米の結核予防活動は市民参加が主体であったことが述べられており、本書を通読すると我が国の結核予防会や結核予防婦人会活動の意義が再確認できる。🐱



性教育について（案）

埼玉医科大学社会医学
教授 亀井美登里



はじめに

The birds and the bees (鳥とミツバチ)という言葉が耳にされたことがあるだろうか。何やら秘密めいた香りが漂う、そうずばり、性教育のことである。性について、あからさまではない表現でこのような英語表現をされるらしい。自然界の摂理として説明しようとするもので、鳥やはちみつが持ち出されているところが面白い。

包括的性教育（CSE）とは

国際的な性教育の指針となっている手引きが、国連のInternational Technical Guidance on Sexuality Education（国際セクシュアリティ教育ガイダンス）（以下「ガイダンス」という。）である。2009年にユネスコが中心となり初版が発行され、その後2018年に改訂され、国際的な性教育の指針となっている。国連教育科学文化機関・ユネスコ（UNESCO）のニュースリリースによると、すべての国の教育政策担当者を対象にして、対象年齢を5歳から18歳以上までに分けて、子どもや若者にそれぞれの年齢に適したカリキュラムを提供できるようにまとめられているという。質の高い包括的なセクシュアリティ教育を提唱し、健康と福祉を促進し、人権とジェンダー平等を尊重し、子どもや若者が健康で安全で生産的な生活を送ることを目的としている。包括的性教育（CSE: Comprehensive Sexuality Education）とは、性行為に関する知識だけでなく、ジェンダー平等や性

の多様性など人権尊重を基盤にした性教育をさす。ガイダンスは、その重要性を強調し、世界の国々に影響を与えてきた。

ガイダンスのコンセプト

8つのコンセプトからガイダンスは成っている。1. 関係性、2. 価値観、権利、文化、セクシュアリティ 3. ジェンダーの理解、4. 暴力と安全確保、5. 健康とウェルビーイング（幸福や喜び）のためのスキル、6. 人間のからだと発達、7. セクシュアリティと性的行動、8. 性と生殖に関する健康で、いずれも大切な視点である。さらに、学習目標は各年齢層別で4段階に分けてまとめられている。私たちが普段性教育からイメージする内容を遥かに凌駕している。単に身体的だけでなく、認知的、感情的、身体的、社会的側面という幅広い見方で、その全範囲を包括的にカバーしている。併せて、教育を行う場も、学校教育だけでなく社会教育、家庭教育等包括性がある。さらには、色々なテーマをその年齢に合わせて、繰り返し積み重ねていくという包括性もある。

SDGsを通して

今秋9月18日から19日に国連本部ではSDGサミットが行われた。岸田首相もこの会議に出席され、日本の取り組みについて演説された。国連のグテーレス事務総長からは「SDGsは単なる目標リストではない。SDGsには世界中の人々の希望・夢・権利・期待が込められ

ている」との演説があった。SDGsの達成は危機に瀕しているとの認識から野心的で変革的な行動を約束する政治宣言が採択された。

日本のSDGsは世界21位と順位を下げている。教育等達成している項目がある一方、ジェンダー平等をはじめ、さらに力を入れていかなければならない項目もある。SDGsの目標項目を達成していけば、自ずと質の高い包括的なセクシュアリティ教育にも繋がるはずだ。

サッコ先生のメッセージ —自分を大切に—

「からだこころ研究所」の著書で産婦人科医の高橋幸子先生（通称サッコ先生）によれば、自分の体を大切にすることから、ほかの人の心を大切にすることまで、「性」はとても広くて深いテーマであるという。なので、大人はお子さんが幼いうちから「性」の話をして欲しいと提案されている。性被害、性的虐待から子どもを守る「防犯」にも繋がる。

これからの注目

来年度、「女性の健康」に特化した国立高度専門医療研究センターが開設される。緊急避妊薬の試験的販売による実用化に向けた検証も始まっている。子ども家庭庁の有識者会議では、子どもの性被害に関する議論が行われている。日本の社会環境も世界標準に近づきつつある。社会の意識が大きく変化しているなかで、関連施策もダイナミックに行われようとしている。これからの注目しよう。🐾

2022年度複十字シール募金結果報告

2022年度に複十字シール運動を通して、結核予防会の支部・本部に寄せられた募金収入は1億4,619万9,939円でした。

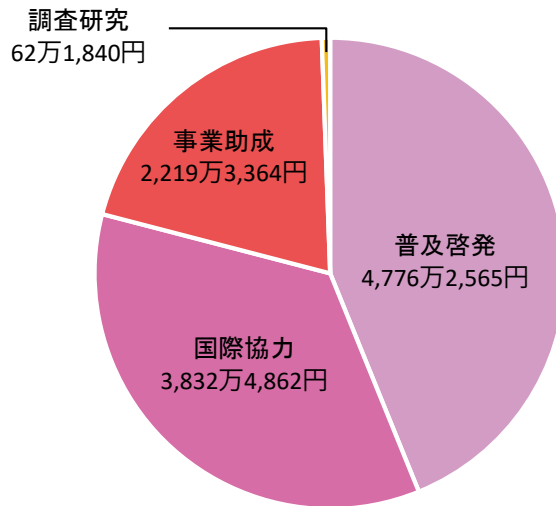
シール、封筒、広報資材等の製作費、運搬費等の諸経費を除いた事業費1億890万2,631円の用途は図の通りです。結核予防の広報や教育資材の作成および研修会や結核予防全国大会の開催等、「普及啓発」に4,776万2,565円、アジア・アフリカの開発途上国の結核対策等の「国際協力」に3,832万4,862円、「事業助成」に2,219万3,364円、結核の「調査研究」に62万1,840円を使わせていただきました。

コロナ禍3年目となる2022年、婦人会の皆様には募金活動や広報資材の配布などの普及啓発活動や

知事への表敬訪問を、感染予防対策を講じながら積極的に実施していただき、複十字シール運動に多

大なご協力を賜りましたことを心より御礼申し上げます。🐱

(事業部募金推進課)



募金収入 1億4,619万9,939円

事業費 1億890万2,631円 (諸経費を除く)

図 2022年度 募金の使途内訳

令和5年度啓発資材のご案内



A4クリアファイル (在庫僅少)



表面



裏面

シールぼうやピンバッジ (在庫僅少)



背面の文字

世界から結核をなくそう
結核死、結核という病気、
そして結核で苦しむ人を
ゼロにしよう
結核予防婦人会

ポロシャツ (フリーサイズ)

今年の啓発資材は、クリアファイルです。クリアファイルとシールぼうやピンバッジは、在庫僅少です。お早めにお申し込みください (増刷の予定はございません)。

また、ポロシャツも、カンボジアとの行き来が始まり、補充しております。イベントのときなど、お揃いにしていただくと、啓発効果抜群です。ぜひご検討ください。

婦人会事務局

ちふれ化粧品は・・・

「誰もが手に入れやすく、安心してつかえる化粧品を。」という思いを込めて創り出した私たちの化粧品です。



ちふれが、約束すること。

- **高品質・適正価格であること。**
製造や販売にかかる余分なコストを削減して、高品質を適正な価格でお届けします。
- **無香料・無着色であること。**
肌によさしくありたい。だから、ちふれのスキンケアはすべて無香料・無着色です。
- **全成分・分量・配合目的を公開すること。**
品質の確かさや商品の安全性だけでなく、自分の肌に合った化粧品の内容を知っていただくためにも、すべての製品の全成分・分量とその配合目的を公開しています。
- **製造年月をすべての容器に表示すること。**
誰にもわかりやすく、安心して使えるように、製造記号を製造年月で表示しています。
- **環境問題に配慮すること。**
毎日使う化粧品だからこそ、環境を大切にしたい。ちふれは、詰替化粧品や植物由来容器の導入などで、環境問題に配慮しています。



ちふれ

患者さんの
Quality of Lifeの向上が
私たちの理念です。

TEIJIN
Human Chemistry, Human Solutions

帝人ファーマ株式会社 帝人ヘルスケア株式会社 〒100-8585 東京都千代田区霞が関3丁目2番1号

PAD009-TB-2103-1